

朝日新聞

第7回

遺族のそばで歩み続けた元刑事 時効廃止を後押しした「見えない力」

有料記事

藤田大道 マハール有仁州 2025年7月14日 6時00分

2010年4月27日。殺人事件などの公訴時効を廃止する刑事訴訟法の改正案が可決され、約130年続いた制度が変わった。これにより、1995年4月28日以降に起きた未解決事件は、現在も捜査が続いている。被害者の遺族らのそばで、ともに歩み続けた警視庁の元刑事がいる。

衆院本会議での可決の瞬間、遺族らでつくる「宙(そら)の会」特別参与の土田猛さん(77)は「見えない力」を感じた。「亡くなった被害者が後押ししてくれた」と思う。



衆院本会議で殺人事件などの公訴時効を廃止する改正法が成立。傍聴席には目頭を押さえる殺人事件被害者遺族の会「宙の会」の会員の姿が見られた。2列目左から5人目は小林賢二代表幹事(当時)=2010年4月27日午後1時6分、国会内 

始まりは一つの事件だった。

2000年の大みそか、東京都世田谷区上祖師谷の住宅で、宮澤みきおさん(当時44)一家4人が殺害されているのが見つかった。警視庁鑑識課の検視担当だった土田さんは、この事件の捜査に携わった。

「あまりにもむごい。人がもっとも安全に感じられる自宅で、一家全員が殺害されるなんて」

鑑識課から捜査1課管理官となった後、現場を管内とする成城署副署長になった。1課に戻った後、署長として再び成城署へ。同じ署で副署長と署長を務める異例の人事だった。解決に向けて尽力したが、07年に退職を迎えた。

「ぽっかりと心に穴が開きそう」な日々を過ごす中で、警察官の立場から離れて見えてくるものもあった。「事件に強制的に区切りをつける時効さえなければいいんじゃないか」

【地図で見る】全国の未解決殺人事件 →

殺人事件の時効が廃止されてから今年で15年。未解決の殺人事件の真相解明の一助になることを目指し、事件を一覧できるページを作成しました。各事件のリストでは、情報提供ができる電話番号も掲載しています。

国立国会図書館に通って時効制度の各国の状況や歴史を学ぶとともに、未解決事件の遺族の考えを聞くことも試みた。

出会ったのは、1996年に葛飾区柴又の自宅で殺害された上智大生小林順子さん(当時21)の父・賢二さん。対話を通じて、出た結論はシンプルだった。

「人を殺した犯人の『逃げ得』は許さない」



未解決事件の情報提供を呼びかける被害者遺族団体「宙の会」のメンバーたち。中央で情報提供を呼びかける人が特別参与の土田猛さん=2011年2月27日午前8時15分、名古屋駅前 

賢二さんや宮澤さんの父・良行さん(故人)らと、それぞれの事件発生月に遺族の声として時効撤廃を訴え始めた。2009年2月に「宙の会」を設立。「被害者は宙のかなたに逝ってしまったが、宙を通じてつながっている」と願いを込めた。設立メンバーには、16の殺人事件の遺族が名を連ねた。

小林さんの事件の時効が2年後に迫る中、国では殺人事件の時効撤廃の検討が続いていた。宙の会による4万5千筆の署名提出などを経て、法改正に向けた動きは急速に進んだ。

09年には政権交代があった。冤罪(えんざい)を生む可能性や証拠品管理といった懸念も示されたが、宙の会の訴えを受けた世論の追い風は強く、翌10年4月に殺人事件の時効が廃止された。土田さんは「家族を失った痛みを伝える遺族の言葉は重く、一般の人の関心をつかんで離さなかった」と振り返る。



殺人事件の被害者遺族でつくる「宙(そら)の会」特別参与の土田猛さん=2025年4月25日午後3時42分、東京都千代田区神田駿河台3丁目、藤田大道撮影 

宙の会には現在、20の事件の遺族が参加している。DNA型捜査の法整備とさらなる活用のほか、民事裁判で加害者が支払う賠償金が確定したら、国がいったん肩代わりする代執行制度の確立を求めるなど、新たな活動を続けている。「会が果たすべき役割はまだまだある」

今後、土田さんは「人を殺したらなぜだめなのか」と、子どもたちに考えてもらう教育にも携わりたいと構想している。

家族を奪った犯人を捕まえるため。これからの事件を「未解決」にしないため。宙の会の歩みは続いていく。



「宙の会」は未解決殺人事件の被害者の遺族にとって大切な居場所にもなっている。

福岡市東区で01年2月、藤堂早苗さん(70)=千葉県=の両親は何者かに殺害された。「宙の会」に入って、初めて仲間が出来たと感じた。本音で話せる場所が見つかった」と話す。

藤堂さんは事件発生当時は45歳。しばらくは仕事が手につかず、1人になれたときだけ思い切り泣けた。

そんな日々のなか、「宙の会」の発足を伝える記事を見つけ、新聞社に連絡してみた。しばらくすると、土田さんから連絡があった。電話で何を話したかは覚えていないが、09年5月にあった最初の全国大会に参加した。

初めて会った被害者の遺族たちはカメラや記者たちの前で堂々と、体験を一生懸命に伝えようとしていた。「つらいことを話すのは自分の中でとても葛藤があっただろうな」。そう想像しつつ、彼らの姿から勇気をもらった。

取材を積極的に受けるようになり、ビラ配りにも参加するようになった。「未解決事件だったの?」「そんな事件あったの?」。そんな声を聞き、事件を知ってもらうことの大切さも知った。



2009年以降、藤堂早苗さんは何度も情報提供を呼びかけるピラ配りを続けてきた=2025年5月3日午後4時34分、千葉県松戸市、マール有仁州撮影 

もうすぐ、亡くなった母親と同じ年齢になる。「なんで自分が遺族にならないといけなかったのか」と自問することはあるが、「それが与えられた試練、宿命なのかな」とも思う。同じような境遇の仲間のために何かできるなら、と考えている。

福岡市の夫婦殺人事件

2001年2月17日ごろ、福岡市東区若宮5丁目の住宅で、金丸金次郎さん(当時80)と妻の愛子さん(同73)が首を絞められるなどして殺害された。同月26日、金次郎さんが2階の寝室から、愛子さんは1階の居間から発見された。

金次郎さんはのどに切り傷があり、愛子さんの首と両足には電気コードが巻かれていた。室内が物色されており、数種類の足跡が見つかった。複数犯の可能性もある。窓が外されていた浴室から犯人が侵入した可能性がある。

東京都葛飾区の大学生殺人事件

1996年9月9日午後3時50分～午後4時40分ごろ、東京都葛飾区柴又3丁目の住宅で上智大4年の小林順子さん(当時21)が首を刃物で刺されて殺害された。住宅が放火された。

小林さんは2階で発見された。粘着テープで口を塞がれ、手足を縛られていた。テープは外部から持ち込まれ、犬の毛が張り付いていた。

現場に犯人のものとみられる血痕が残されており、血液型A型の男のDNA型が検出された。事件前に周辺で、身長約150～160センチで黄土色のコートを着た男が目撃されている。

東京都世田谷区の一家庭4人殺人事件

2000年12月31日、東京都世田谷区上祖師谷3丁目の住宅で、宮澤みきおさん(当時44)と妻の泰子さん(同41)、長女のいなさん(同8)と長男の礼君(同6)の4人が遺体で見つかった。胸などを刺されたり首を絞められたりしていた。

前日30日深夜以降の犯行とみられ、犯人は中2階の浴室の窓から侵入した可能性が高い。室内には物色された跡があり、犯人の血痕やトレーナーなどが残されていた。犯人の血液型はA型とみられ、トレーナーは都内では10着だけ販売されたものだった。

この記事を書いた人

マハール有仁州
ネットワーク報道本部

 フォロー

専門・関心分野

ナショナリズム、近代アジアの歴史・思想

朝日新聞のデジタル版に掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.